

関数解析ノート：ノルム空間上の有界双線形写像

大阪大学大学院基礎工学研究科

平井祐紀

2018 年 8 月 29 日

概要

ノルム空間上の双線形写像について、ごく基本的な性質をいくつか調べる。これらは関数解析においてしばしば常識のように扱われるが、意外と明記してある文献が少ないので、きちんと証明を与える。

1 双線形写像

\mathbb{K} を体とする。

定義 1.1. X, Y, Z を \mathbb{K} -線形空間とする。写像 $b: X \times Y \rightarrow Z$ で

- (i) 任意の $y \in Y$ について、写像 $X \ni x \mapsto b(x, y) \in Z$ は線形写像である。
- (ii) 任意の $x \in X$ について、写像 $Y \ni y \mapsto b(x, y) \in Z$ は線形写像である。

を満たすものを、双線形写像という。双線形写像 $X \times Y \rightarrow Z$ 全体の集合を $\text{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z)$ であらわす。

$\text{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z)$ は各点ごとの和とスカラー倍により線形空間となる。

命題 1.2. (i) $b: X \times Y \rightarrow Z$ が双線形写像で $f: Z \rightarrow W$ が線形写像ならば、 $f \circ b: X \times Y \rightarrow W$ は双線形写像である。

(ii) $f: X_1 \times X_2$ と $g: Y_1 \times Y_2$ が線形写像で $b: X_2 \times Y_2 \rightarrow Z$ が双線形写像ならば、 $b \circ (f \times g)$ は双線形写像である。

証明. 定義に従って計算すればわかる。□

双線形写像は、線形写像の空間への線形写像とみなすことができる。

命題 1.3. $\text{Hom}_{\mathbb{K}}(X, \text{Hom}_{\mathbb{K}}(Y, Z)) \simeq \text{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z)$.

証明. $b \in \text{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z)$ と $x \in X$ に対して、線形写像 $\Phi(b)(x)$ を $y \mapsto b(x, y)$ によって定義すれば、これは線形写像

$$\begin{aligned}\Phi: \text{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z) &\longrightarrow \text{Hom}_{\mathbb{K}}(X, \text{Hom}_{\mathbb{K}}(Y, Z)) \\ b &\longmapsto \Phi(b)\end{aligned}$$

を定める。また、 $f \in \text{Hom}_{\mathbb{K}}(X, \text{Hom}_{\mathbb{K}}(Y, Z))$ と $(x, y) \in X \times Y$ に対して $\Psi(f)(x, y) = (f(x))(y)$ と定義す

れば, $\Psi(f)$ は双線形写像 $X \times Y \rightarrow Z$ を定める. これより定まる線形写像

$$\begin{aligned}\Psi: \operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}(X, \operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}(Y, Z)) &\longrightarrow \operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z) \\ f &\longmapsto \Psi(f)\end{aligned}$$

は, Φ の逆写像となっている. ゆえに, $\operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}(X, \operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}(Y, Z)) \simeq \operatorname{Hom}_{\mathbb{K}}^{(2)}(X, Y; Z)$ が成り立つ. \square

2 ノルム空間上の有界双線形写像

これ以降, $\mathbb{K} = \mathbb{C}$ または \mathbb{R} とする. ノルム空間 X が与えられたとき, そのノルムを $\|\cdot\|_X$ などと表すことにする.

定義 2.1. X, Y および Z をノルム空間, $b: X \times Y \rightarrow Z$ を双線形写像とする. ある定数 $C > 0$ で

$$\forall (x, y) \in X \times Y \quad \|b(x, y)\|_Z \leq C\|x\|_X\|y\|_Y$$

を満たすものが存在するとき, b は有界であるという. 有界双線形写像全体の空間を $L^{(2)}(X, Y; Z)$ で表す.

双線形写像の連続性と有界性について, 線形写像と似たような性質が成り立つ.

命題 2.2. X, Y および Z をノルム空間, $b: X \times Y \rightarrow Z$ を双線形写像とする. このとき, 以下の 3 条件は同値である.

- (i) b は連続である.
- (ii) b は 0 で連続である.
- (iii) b は有界である.

ただし, $X \times Y$ は直積位相空間と考える.

証明. (i) \implies (ii). 明らか.

(ii) \implies (iii). b は 0 で連続だから, 十分小さい $\varepsilon, \delta > 0$ をとれば

$$\|x\|_X \leq \varepsilon, \|y\|_Y \leq \delta \implies \|b(x, y)\|_Z \leq 1$$

が成り立つ. このとき, 0 でない任意の $x \in X$ と $y \in Y$ に対して

$$\frac{\varepsilon\delta}{\|x\|_X\|y\|_Y} \|b(x, y)\|_Z \left\| b\left(\varepsilon \frac{x}{\|x\|}, \delta \frac{y}{\|y\|}\right) \right\|_Z \leq 1$$

である. これより, 全ての $(x, y) \in X \times Y$ に対して

$$\|b(x, y)\|_Z \leq \frac{1}{\varepsilon\delta} \|x\|_X \|y\|_Y$$

となり, b は有界である.

(iii) \implies (i). b が $(x_0, y_0) \in X \times Y$ を任意の選び, b が (x_0, y_0) で連続であることを示そう. $(x, y) \in X \times Y$ を (x_0, y_0) 中心の単位球からとれば,

$$\begin{aligned}\|b(x_0, y_0) - b(x, y)\|_Z &\leq \|b(x_0, y_0) - b(x_0, y)\|_Z + \|b(x_0, y) - b(x, y)\|_Z \\ &\leq C\|x_0\|_X\|y_0 - y\|_Y + C\|x_0 - x\|_X\|y\|_Y \\ &\leq C(\|x_0\|_X + \|y_0\|_Y + 1)(\|y_0 - y\|_Y + \|x_0 - x\|_X)\end{aligned}$$

が成立. これより b の (x_0, y_0) での連続性がわかる. □

命題 2.2 によれば, $L^{(2)}(X, Y; Z)$ とは連続双線形写像の空間に他ならない. $b \in L^{(2)}(X, Y; Z)$ に対して,

$$\|b\| = \inf\{C > 0 \mid \forall (x, y) \in X \times Y \ \|b(x, y)\|_Z \leq C\|x\|_X\|y\|_Y\}$$

と定義する. この定義の右辺では \inf となっているが, これは実際 \min であり,

$$\|b(x, y)\|_Z \leq \|b\|\|x\|_X\|y\|_Y$$

が成り立っている.

命題 2.3. $b \in L^{(2)}(X, Y; Z)$ に対して,

$$\|b\| = \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\| = \sup_{\|x\|\leq 1, \|y\|\leq 1} \|b(x, y)\| = \sup_{\|x\|, \|y\| \neq 0} \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|}$$

が成り立つ.

証明. **Step 1**: 一つ目の等号. $x \neq 0$ かつ $y \neq 0$ なら,

$$\|b(x, y)\| = \|x\|_X\|y\|_Y \left\| b\left(\frac{x}{\|x\|_X}, \frac{y}{\|y\|_Y}\right) \right\|_Z \leq \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\|_Z \|x\|_X\|y\|_Y$$

が成り立つので,

$$\|b\| \leq \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\|$$

である. $\|x\|_X = \|y\|_Y = 1$ なら

$$\|b(x, y)\|_Z \leq \|b\|\|x\|_X\|y\|_Y = \|b\|$$

が成り立つ. このような x, y について \sup をとれば

$$\sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\| \leq \|b\|$$

もわかる.

Step 2: 二つ目の等号.

$$\sup_{\|x\|\leq 1, \|y\|\leq 1} \|b(x, y)\| \geq \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\|$$

は明らか. $0 < \|x\|_X, \|y\|_Y \leq 1$ ならば,

$$\|b(x, y)\|_Z = \|x\|_X\|y\|_Y \left\| b\left(\frac{x}{\|x\|_X}, \frac{y}{\|y\|_Y}\right) \right\|_Z \leq \left\| b\left(\frac{x}{\|x\|_X}, \frac{y}{\|y\|_Y}\right) \right\|_Z \leq \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\|$$

となり,

$$\sup_{\|x\|\leq 1, \|y\|\leq 1} \|b(x, y)\| \leq \sup_{\|x\|=1, \|y\|=1} \|b(x, y)\|$$

もわかる.

Step 3 : 二つ目の等号. $x \neq 0$ かつ $y \neq 0$ なら,

$$\frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|} = \left\| b\left(\frac{x}{\|x\|_X}, \frac{y}{\|y\|_Y}\right) \right\|_Z \leq \sup_{\|x\| \leq 1, \|y\| \leq 1} \|b(x, y)\|$$

なので, 左辺で \sup をとれば

$$\sup_{\|x\|, \|y\| \neq 0} \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|} \leq \sup_{\|x\| \leq 1, \|y\| \leq 1} \|b(x, y)\|$$

がわかる. 一方, $0 < \|x\|_X, \|y\|_Y \leq 1$ ならば

$$\|b(x, y)\| = \|x\|\|y\| \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|} \leq \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|} \leq \sup_{\|x\|, \|y\| \neq 0} \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|}$$

となるから, \sup をとれば

$$\sup_{\|x\| \leq 1, \|y\| \leq 1} \|b(x, y)\| \leq \sup_{\|x\|, \|y\| \neq 0} \frac{\|b(x, y)\|}{\|x\|\|y\|}$$

を得る. □

命題 2.3 と双対的に, 次の命題が成り立つ.

命題 2.4. X と Y をノルム空間とすれば, 全ての $(x, y) \in X \times Y$ について

$$\|x\|\|y\| = \sup\{|b(x, y)| \mid b \in L^{(2)}(X, Y; \mathbb{K}), \|b\| \leq 1\}$$

が成り立つ.

証明. b のノルムの定義より, $b \in L^{(2)}(X, Y; \mathbb{K})$ かつ $\|b\| \leq 1$ なら

$$|b(x, y)| \leq \|b\|\|x\|\|y\| \leq \|x\|\|y\|$$

が成り立つ. よって $\sup\{|b(x, y)| \mid b \in L^{(2)}(X, Y; \mathbb{K}), \|b\| \leq 1\} \leq \|x\|\|y\|$ である.

$(x, y) \in X \times Y$ に対して $x^* \in X^*$ と $y^* \in Y^*$ を $|x^*(x)| = \|x\|$ かつ $|y^*(y)| = \|y\|$ となるように選ぶ. $b(x, y) = x^*(x)y^*(y)$ と定義すれば,

$$|b(x, y)| = |x^*(x)y^*(y)| = \|x\|\|y\|$$

が成り立つので, $\sup\{|b(x, y)| \mid b \in L^{(2)}(X, Y; \mathbb{K}), \|b\| \leq 1\} \geq \|x\|\|y\|$ もわかる. □

ノルム空間においては, 命題 1.3 において連続性を課した空間の同型も成り立つ. ノルム空間 E から F への有界線形写像全体の空間を $L(E, F)$ と書き, これを通常的作用素ノルムによりノルム空間と考える.

命題 2.5. $L^{(2)}(X, Y; Z)$ と $L(X, L(Y, Z))$ は等長同型である.

証明. φ を命題 1.3 の証明における写像 Φ の $L^{(2)}(X, Y; Z)$ への制限, ψ を Ψ の $L(X, L(Y, Z))$ への制限とする. $b \in L^{(2)}(X, Y; Z)$ とすれば,

$$\|\varphi(b)\| = \sup_{\|x\| \leq 1} \|\varphi(b)(x)\|_{L(Y, Z)} = \sup_{\|x\| \leq 1} \sup_{\|y\| \leq 1} \|\varphi(b)(x)(y)\|_Z = \sup_{\|x\| \leq 1} \sup_{\|y\| \leq 1} \|b(x, y)\|_Z = \|b\|$$

が成立. ゆえに $\text{Im } \varphi \subset L(X, L(Y, Z))$ であり, $\varphi: L^{(2)}(X, Y; Z) \rightarrow L(X, L(Y, Z))$ は等長写像である. 逆に $f \in L(X, L(Y, Z))$ とすれば

$$\|\psi(f)\| = \sup_{\|x\| \leq 1, \|y\| \leq 1} \|\psi(f)(x, y)\| = \sup_{\|x\| \leq 1} \sup_{\|y\| \leq 1} \|f(x)(y)\| = \|f\|_{L(X, L(Y, Z))}$$

なので, $\text{Im } \psi \subset L^{(2)}(X, Y; Z)$ もわかる. 命題 1.3 の証明より φ と ψ は明らかに互いに逆写像になっており, 先ほどの等式より特に等長である. \square

系 2.6. $L^{(2)}(X, Y; \mathbb{R})$ と $L(X, Y^*)$ は等長同型である.

双線形写像の空間 $L^{(2)}(X, Y; Z)$ には行先の空間 Z の完備性が遺伝する. このことは有界線形作用素に関する結果と命題 2.5 からすぐに従うが, ここでは直接証明することにする.

補題 2.7. ノルム $\|\cdot\|: L^{(2)}(X, Y; Z) \rightarrow \mathbb{R}$ は $L^{(2)}(X, Y; Z)$ の各点収束位相について下半連続である.

証明. $(b_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$ を $L^{(2)}(X, Y; Z)$ で各点収束する有向族とする. $\|x\|_X, \|y\|_Y \leq 1$ なら

$$\|b_\lambda(x, y)\|_Z \leq \|b_\lambda\|$$

が成り立つから, λ に関する上極限をとれば

$$\|b(x, y)\|_Z = \liminf_{\lambda} \|b_\lambda(x, y)\|_Z \leq \liminf_{\lambda} \|b_\lambda\|$$

を得る. ((b_λ) の各点収束性より.) これより

$$\|b\| \leq \liminf_{\lambda} \|b_\lambda\|$$

がわかる. \square

命題 2.8. Z が Banach 空間ならば, $L^{(2)}(X, Y; Z)$ も Banach 空間である.

証明. (b_n) を $L^{(2)}(X, Y; Z)$ の Cauchy 列とする. $\|x\|_X, \|y\|_Y \leq 1$ なら

$$\|b_n(x, y) - b_m(x, y)\|_Z \leq \|b_n - b_m\|$$

となるので, このとき $(b_n(x, y))$ は Z の Cauchy 列である. Z の完備性より Cauchy 列は (ただ一つの) 極限をもつので, それにより

$$b(x, y) := \lim_{n \rightarrow \infty} b_n(x, y)$$

と定義する. このとき $b: X \times Y \rightarrow Z$ が双線形写像であることは, 和とスカラー倍の連続性よりわかる. したがって, あとは b が $L^{(2)}(X, Y; Z)$ のノルムの意味で (b_n) の極限であることを示せばよい. $\varepsilon > 0$ とし, $N \in \mathbb{N}$ を $n, m \geq N$ ならば

$$\|b_m - b_n\| < \varepsilon$$

が成り立つようにとる. いま b は (b_n) の各点収束極限であることに注意すれば, 補題 2.7 より

$$\|b - b_n\| \leq \liminf_{m \rightarrow \infty} \|b_m - b_n\| \leq \varepsilon$$

がわかる. よって, (b_n) は $L^{(2)}(X, Y; Z)$ のノルムの意味でも b に収束している. \square

References

- [1] Serge Lang. *Real and Functional Analysis*. 3rd ed. Graduate Texts in Mathematics 142. Springer-Verlag New York, 1993. DOI: [10.1007/978-1-4612-0897-6](https://doi.org/10.1007/978-1-4612-0897-6).
- [2] 宮島 静雄. 関数解析. 横浜図書, 2014.
- [3] 斎藤 毅. 線形代数の世界. 抽象数学の入り口. 大学数学の入門 7. 東京大学出版会, 2007.